



## 遊びをとおして子どもたちの成長とつながりを あそび〜舎<sup>や</sup>

子どもたちの放課後活動の場をつくっている「あそび〜舎」（会員11名、代表者牧田かおりさん）。概ね月に2回、町立福祉センターを会場に活動をしています。子どもたちは宿題や工作、木のおもちゃ遊び等、やりたいことを選んで友達と楽しく過ごしています。

「遊びをとおして子ども同士のつながり、子どもと大人や高齢者とのつながりができる場になったらいいなと思っています」世話人の牧田かおりさんは言います。牧田さんは6ページの「話を聴かせて」に登場。子どもたちへの想いや、おもちゃの可能性について熱く語ります。

三朝町社会福祉協議会広報誌

# 福祉みささ

第209号

2024年11月1日

# 赤い羽根共同募金

## くじぶんの町を よくするしくみ



あそび〜舎と小鹿老人クラブの交流

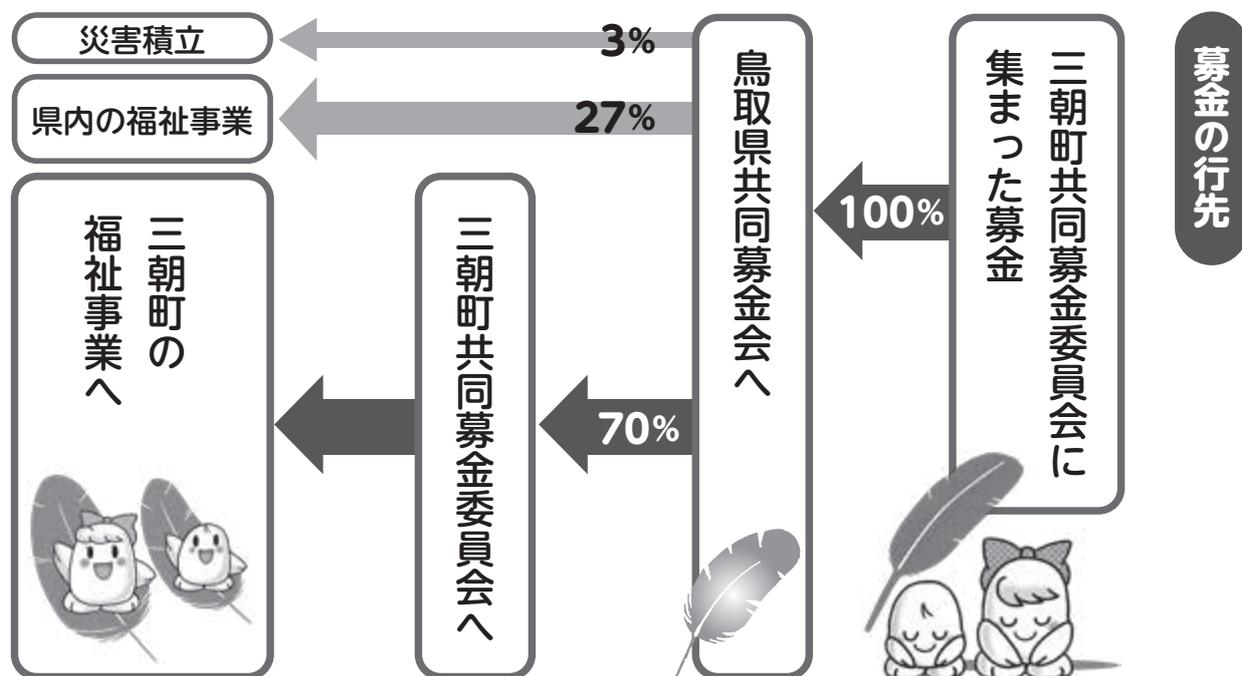
今年も赤い羽根共同募金運動を10月1日から全国一斉に行っています。

赤い羽根の募金運動は、まちの人のやさしい気持ちを集める運動です。募金運動で集まった寄付金は、地域のサロン活動や小中学校への福祉教育推進など、子どもから高齢者までみんなが一緒に安心して暮らせるまちづくりに役立てられます。

また災害発生時の支援に関する費用にも充てられます。

あなたのやさしさが、あなたの声かけが、あなたの行動がきつとまちを変えていくはじめの一步となるはず。皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

なお、募金運動は一人おひとりの善意に基づいて行われるものです。皆様それぞれの自発的な意思が尊重されるようにご配慮をお願いします。





# 主な助成内容

## ボランティアグループ助成

こども食堂みんな家  
ちまきづくり



## 福祉団体助成

三朝町老人クラブ連合会  
スポーツ大会



## 福祉みささ発行助成

本誌も赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています



## 福祉教育推進助成

三朝小学校 栽培活動



## 第32回 三朝町福祉大会のご案内

少子高齢化の進行や地域のつながりが希薄化するなか、私たちを取り巻く福祉課題はより複雑・多様化しています。

「住み慣れた地域の中で、安心してその人らしく暮らすことができる」が地域支え合いの目指すところです。そのためには「支え合いの本質とは何か」を今一度考え、理解し、三朝町全体で共有する必要があります。

本大会は、町内の福祉関係者が一堂に会して、地域の福祉課題への認識を共有し、その解決に向けて連携を強化することで、地域福祉のより一層の推進に資することを目的として開催します。



日 時 令和6年11月10日(日)  
9:30～11:30

会 場 三朝町立福祉センター

内 容 講 演 「災害時の個別支援と日常の支え愛」

講 師 鳥取県災害福祉支援センター

特任参事 白鳥 孝太氏

# 県知事表彰受賞

## 下西あつたか元気塾



9月12日、米子コンベンションセンターにて令和6年度県民総合福祉大会が開催されました。その中で三朝町から下西谷の「下西あつたか元気塾（代表者：中本壽賀子さん）」がボランティア活動の功勞として県知事表彰を

受けました。

下西あつたか元気塾は下西谷の高齢者の交流・健康づくりの拠点としてウォーキングや役場国際



交流員との交流、料理教室等に取り組んでいきます。代表の中本さんは「毎月いろいろな内容の活動をして、和気あいあいと楽

しんでいます。ご協力いただいている皆さんに感謝いたします。これからも新しいことを取り入れて、元気に活動していきたいと思えます」とますます意気込んでいきます。社協は住民皆さんの活動を支援していきます。この度は受賞おめでとうございます！



## 《寄付紹介》

「ありがとう  
ございました」

### ◆香典返し寄付者

桜ヶ丘	竹部 貴明様（故輝夫様）	金一封
森	牧田幸一郎様（故里恵様）	金一封
東京都	森次 宏之様（故謙二様）	金一封
加谷	福田 雅貴様（故幹彦様）	金一封

### ◆一般寄付

東京都	住江 清様（地域福祉のために）	金一封
-----	-----------------	-----

※寄付者及び寄付金額の記載は、寄付者ご本人の了解をいただいています。なお、金一封の記載は金額の多少に関わらず、寄付者のご本人の意思によるものです。



# デイサービス夏祭り

2024.8.22



職員出し物 銭太鼓



くじ引き大会 何が出るかな

**日 程**  
 9:30~ 開会  
 10:00~ 歌体操  
 10:15~ 演芸 結城会  
 昼食・昼寝  
 14:10~ 職員出し物  
 14:30~ くじ引き大会  
 15:00~ おやつ  
 15:25 閉会



結城会による演舞



演者とハイ、チーズ



## 社協の人財

インタビュー



介護課  
川北 勝昭

・所属と勤務年数を教えてください。

所属 介護課 勤務年数 32年

・具体的な仕事内容を教えてください。

介護保険事業内の業務が円滑にまわるよう、介護課長を補佐しています。

また、デイサービスでは看護師として利用される方の健康管理を主として行うとともに、入浴介助やトイレ介助などの介護業務も行っています。

・仕事におけるやりがいは何ですか。

デイサービスを利用される方が、元気に通ってきてくださること、楽しそうな笑顔を見ることができた



ゲームで体張ってます

時です。また、職員全員で一つの目標に向けて取り組み、達成できた時です。

・目指す理想像を教えてください。

三朝町内の方で困りごとがある方や心配ごとがある方への相談やバックアップがきちんとでき、皆が笑顔で暮らせる町になれるよう取り組んでいけたらと思っています。

また、福祉の拠点として今まで以上に多くの方に活用していただける福祉センターになればと思っています。

# 話を聴かせて



森区  
牧田かおりさん

## 活動のきっかけ

看護師として働いていたのですが、仕事をしていく中で、20歳そこそこの若い女性が自分のことを大切にしていけない場面や親による子どもへの虐待等、いろんなことを見てきました。なぜこんなことになるのだろう



宿題やっています

と考えるうちに、子ども時代からの関わりが大切だと思おうようになりました。看護師を辞めて、子どもの育成に関する勉強をしました。その中でおもちゃ遊びの素晴らしさを知り、子どもたちがおもちゃで遊べる取り組みをすることで、子どもたちに関わっていいことと思いました。

## 活動のスタート

最初は湯梨浜町での活動に参加していたのですが、やっぱり地元でやりたいという思いが強くなり、三朝町の仲間と始めたのが2021年です。みささ図書館の2階を利用していました。当初は赤ちゃんママ対象の遊びの場として午前中から開催



工作に夢中

していたのですが、周知が足らなかったのか参加がありませんでした。図書館にチラシを置かせてもらっていたら、それを見た学校帰りの小学生と保護者が寄ってくれるようになりました。自然と小学生中心の放課後活動となり、保護者もスタッフの一員となり現在の形となりました。

## おもちゃの可能性

スマホやオンラインのゲームのように、楽で便利だけど、大人が心配しながら見守ったり制限をかけたたりするものはおもちゃとは言いません。おもちゃとは、年齢や成長に合わせて使い方をすれば、大人も安心できる、安全なものでなければいけません。友達とけんかして、面と向かってごめんとさえなくても、おもちゃと一緒に遊んで自然と仲直りしていく、コミュニケーションツールの側面もあります。大人になって、そのおもちゃに触れたときタイムマシンのように子ども時代に帰れて、その頃を思い出せる。そんな温もりのある



手作りアスレチックコース

ものなのです。

現代の最新おもちゃのように次から次に購買意欲を煽るのではなく、一緒に遊ぶことで人とつながり、時を超えた関係もできる。それこそが本当のおもちゃなのです。

## あそび舎のこれから

今の福祉センターでの活動は、宿題、工作、おもちゃ遊び、健康むらでの外遊び等、いろんなことができている。でも、それはスタッフでもある保護者の皆さんの協力があってこそできるものです。保護者にもスタッフとして動いてもらうことになるので、なかなか難しいとは思いますが、仲間が増えていったらいいなと思います。子どもたちの成長や関係性の変化によって、この先どうなるか未知な部分もありますが、一緒に遊んでつながり、共に学ぶ場として楽しんでいきたいと思っています。



健康むらで駆け回ります